

ちばしや通信 Vol. 3

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。かねてからお伝えしておりますように、当法人はお陰様で創立10周年を迎えます。

少子高齢化や核家族化の急速な進行等により、今後さらに福祉・介護サービス等の充実が求められている一方、社会保障費の圧縮や福祉・介護に携わる人材不足により、あらゆる福祉・介護事業所においては、サービスの提供と運営が非常に厳しい状況に直面しています。

私たち役職員一同は、「本人主体（利

用者主体の原則）」「地域と共に歩む」という基本に立ちかえって、制度に振り回されず、地道にひとつずつ、目の前のできることからしっかりと取り組んで参りたいと存じます。

本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

代表理事 宮下 裕一
代表理事 松本 誠康
代表理事 筒井 眞六

（創立10周年記念イベント） ときがねフォーラム

日時：平成27年2月1日（日）10:00～15:00
会場：東金市中央公民館 講堂・研修室 他
参加対象：どなたでも 参加費：無料

【午前の部】

♪式典

- ◆オープニング ◆挨拶・祝辞・来賓紹介
- ◆事業活動紹介 ◆福祉車両贈呈

♪記念講演

「住み慣れた地域で暮らし続けるために…」

講師：黒岩 尚文 さん

（株式会社浪漫 代表）

【午後の部】

♪ステージ企画

- ◆太鼓の演奏・体験
- ◆きもの地のファッションショー
- ◆演奏・ダンス など

♪特別企画

「広がりある「公」をつくろう！」

講師：斎藤 主悦 さん

（都岐沙羅パートナーズセンター 理事・事務局長）

楽しいステージ企画を準備して
ます！みんな来てね。



腹話術



つばさ太鼓



ベリーダンスショー



フルート演奏



きもの地の
ファッションショー



ありっば

特別寄稿

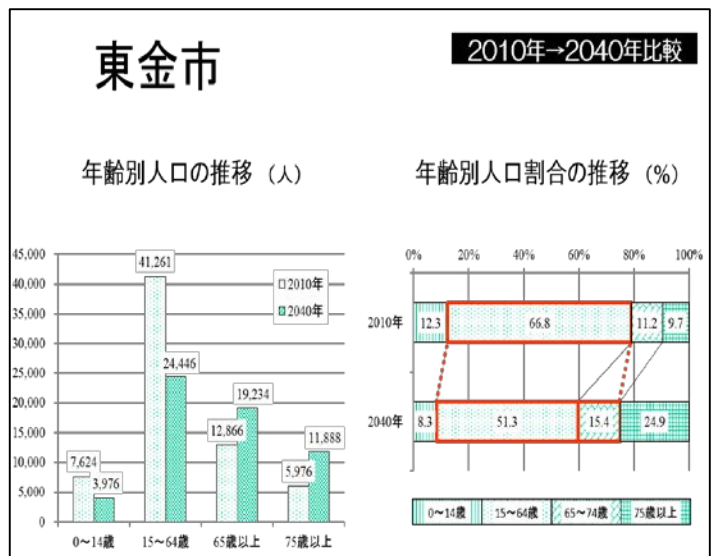
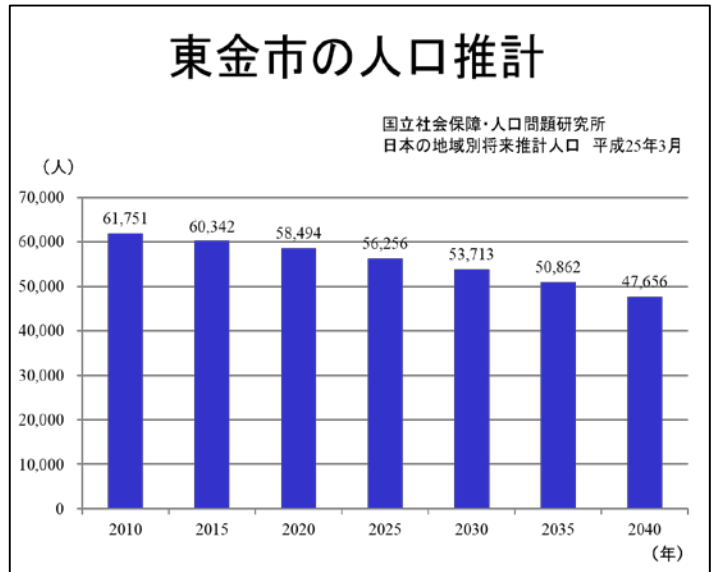
『社会の変化と“ちば地域生活支援舎”への期待』

東日本大震災の被災地では、「震災後、ありがとうと言う回数が増えた。震災後、ありがとうと言われることが減った。私たちが『ありがとう』と言われるようなことがしたい」という声を、高齢者が発します。被災者だから、高齢者だからといって、何もできない人の如く何でもしてあげる、してもらおうというのではなく、要支援や要介護になっても、できることは今までどおり自分でし、時にはそれが他者に役立ち感謝される、そんなふうに関いにできることを出し合い「支え合う」というあり方が求められていると実感しています。

さて、ちば地域生活支援舎が「鶉嶺の家」を開設してから10年が経ち、私たちが暮らす社会は大きな転換期を迎えています。

「少子高齢化」に加え、急速に進む「人口減少」が話題となり、「地方創生」という言葉をよく耳にするようになりました。将来人口推計（国立社会保障・人口問題研究所）によれば、1億2千7百万人の私たちの国の人口は、45年後には4千万人減って8千8百万人となり、高齢化率も全国平均で40%を超えるとされています。

東金市に目を向けてみると、25年後の2040年には、0～14歳の子どもが現在よりも5割減少し、15～64歳までの生産年齢人口が4割減少する一方で、65歳以上の高齢者は1.5倍に、75歳以上は2倍になると推計されています（表を参照）。若い世代が減るのに、病気や介護など何らかの支援が必要となる75歳以上の人口が増える時代がやってくるのです。これは今日生まれた子が25歳とか45歳の時の話です。



私は、これら子どもたちに、今私たちが享受しているくらいの社会を残したい、と切に願っています。そのためには、子どもたちだけではなく、その親世代をしっかり支えていくこともたいせつなことです。

この4月介護保険は見直され、「要支援」の人は「地域で支え合う」新しい仕組みに移ります。それは一見後退にも見えますが、それぞれの地域の暮らし方に合わせて、介護保険のサービス内容を市町村が工夫することができるようになるのです。してもらっばかりのサービスで

はなく、高齢になって他人の手助けを受けるようになってもお、他者の役に立て、可能であれば短時間でも仕事として報酬も得られる、そんな生涯現役社会は、生産年齢人口の減少を補うだけではなく、子どもや若者世代に元気を与え、若いも若きもともに支え合っていく共生社会の

基盤となっていきます。

社会の変化に対応しながら地域に寄り添い共生社会をめざす、ちば地域生活支援舎の新たな10年に期待しています。

(池田 昌弘／初代理事長)

理事からの メッセージ



私は、東金市で、主婦とお百姓さんと障がい者と呼ばれる普通の人々と一緒に、子育てをしながら、高齢者や障がい者、子ども、地域づくりにかかるボランティア活動をしていました。そんな私たちが夢見ていたのは、「誰もが住み慣れた地域で幸せに生きる！！」ということでした。

平成16年のある日、東北の宮城県で福祉・介護関係の仕事をしている人たちから、「一緒に理想の活動・サービスをする団体つくりませんか？」と話がありました。「正直…そんな理想郷をこんな保守層の強い田舎でできるわけがない！」「でも、みんなでやれば…もしかしたら出来るのかもしれない！」と揺れていましたが、あっという間に“NPO法人ちば地域生活支援舎”が立ち上がりました。

「本当は、自宅の畳の上で死にたかった！」お年寄り、「本当に“施設の中での暮らし”から脱出したかった」友人（障がいを抱えた人）、「それぞれの望みを実現できる地域になれるのか？」

かすかな希望を持って…まずは普通の小さな一軒家を賃貸して始めました。とてもウキウキしました。

地域の民生委員さん宅にお邪魔して事業の説明をさせていただいたり『ときがね通信』やサロン活動を回覧板で紹介させていただいたり、スタッフと一緒に自転車で走り回って地域の人たちにご挨拶した日々を昨日のことに思い出します。

地域への説明が行き届かず、ご利用者が2～3人しかおらず悩ましい日々を送った時期もありました。しかし、お陰様で東金市内に8つの拠点を設置し、多様な支援ができるようになりました。これも、多くの地域も皆様のお陰だととても感謝しています。

現在私は、「鵠嶺の家」と旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」で、川島道子さんを中心とした仲間たちと、着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンを、毎月第2、第4の月曜日に実施しています。

このサロン活動も、地域の多様な人たちをつなぐとともに、一人ひとりの元気づくりにつながってきました。これからもさらに発展させていきたいと考えています。

(篠崎かおり)

【法人内の各事業所から】

鶺鴒の家（高齢者・障がい者）

毎日寒いですねえ～。

寒いこの時期は、昼食が終わり午後なのんびりタイムになるとあったか～い室内、あっちの部屋でもこっちの部屋でも気持ちよさそうに眠る姿が多くなります。

鶺鴒の家（児童）

年末、みんなで大掃除しました。窓ふき、そうじがけ、未就学の子供たちも、頑張ってお手伝いしてくれました。

新年も、インフルエンザに負けない元気で、公園に遊びに行きました。

子ども支援センターぽけっと

子供たちが楽しみにしていた冬休み！年末はみんなで年越しそばを食べました。そして年明けにはお飾りをし、近くの神社へ行ってお参りをしたり、大きな公園で凧揚げをしてお正月気分を味わいました。風邪に負けないで今年も元気よくみんなで遊びましょう！！

サポートセンタースピリッツ

今大人気の『妖怪ウォッチ』。街中は『妖怪ウォッチ』であふれています、その流行りにのっかり、先日、スピリッツを利用されている方と『妖怪ウォッチ』の映画を観てきました。やはりすごい人気で映画館もいっぱい。一緒に行った方もとても満足されていました。皆さんの近くにも妖怪が隠れているかもしれません。

街かど福祉相談室ると

障害福祉サービスには馴染みのない言葉や複雑な制度が多く、分かりにくいこともたくさんあるのではないかと思います。「なにか制度はあるようだけど、どのようなもので自分が使えるサービスかわからない」「この手続きは必ずしなければいけないものなのかな？」このような疑問や不安がありましたら、るとスタッフまでお気軽にお尋ねください。

ハンドワーク

新年始めのソーイングボックス（裁縫箱）作り。土台の切り出しから布貼り、綿詰め、少しでも長く愛着を持って使って頂ける様に皆で一生懸命作っています。



ありさ

明けましておめでとうございます。

ありさ棚ショップ利用者募集中！！

手芸の得意な方、ありさの棚ショップで販売してみませんか？

連絡先→50-0362（豊田）



かばの家

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。今年も喜んでもらえるように、利用者・職員みんなで頑張りたいと思います。

五根の家・グループホーム

入居されているお年寄りは、それぞれのお正月を迎えられました。遠方で普段なかなかお会いできないご家族の面会があったり、ご家族持参のお節料理に舌鼓を打ったり、いつもとは少し違った新鮮な雰囲気でした。

五根の家・小規模多機能ホーム

12月24日、ボランティアのミルキーウェイ・バンドの演奏に合わせて、クリスマスにちなんだ歌を歌ったりしました。みんなで作った手作りケーキを食べたりと楽しいひと時でした。バンドの皆さん、ありがとうございます！

ちばしゃ通信（Vol3）



発行日：2015年1月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

編集者のつぶやき

- 最近、鶺鴒の家に来る N ちゃんは、私を見ると「サンタさん！」とか「サンタさん、〇〇して～」と笑顔で駆け寄ってくる。体格と白いフリースのせいかな？？嬉しい半面、サンタさんほど歳はっていないだけけど…複雑な心境になるこの頃です。(Jerry)
- 新年も明けて半月が経ちましたね。寒い日がまだまだ続き感染症等も流行っているようです…皆さんも予防等しっかりと行って良い一年を過ごしましょう！（W）